

東京経済大学大学院 経営学研究科 入学試験 (2026年度 2期入試)

課 程	修士課程
入試区分	一般入試・留学生入試
試験科目	専門科目（経済学）
出題意図	修士課程で学ぶべき経営学への応用を想定した経済学に関する学士レベルの専門的な知識を修得していること、および、それ等の知識に基づく基礎的な理解力・分析能力を問う問題である。
解答例	<p>解答例を公開することは、受験生を特定の解答に誘導し 筆記内容が画一的になる恐れがあり、筆記試験が意図する知識・思考力・表現力・創造力等の把握を困難にするため、解答のポイント（採点基準）のみを公表しております。</p> <p><解答のポイント（採点基準）></p> <p>『大学院募集要覧』記載の「参考文献」を念頭に置き、主に以下の点を評価対象とする。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 設問の内容を把握できていること。(2) 専門分野（経済学）に関する学士レベルの専門的な知識を、上記「参考文献」の学習を通じて、修得できていること。(3) 上記「参考文献」で学習した知識と設問との関係性を明確に認識できていること。(4) 設問に対して論理的に解答できていること。(5) 上記の諸点を無理なく読み取れる文章を作成できていること。

※ 公開している入試問題等について、私的利用以外の目的で複製・転載・転用することを一切禁じます。

大学院経営学研究科・修士課程

入学選考試験問題

(1科目・2題：試験時間90分)

【10:00～11:30】

2026年 2月16日実施

東京経済大学大学院

経営学研究科

【経済学】 ※ 以下の問題1・問題2の両方とも解答しなさい

問題1については問題1の解答用紙を、問題2については問題2の解答用紙を、必ず使用のこと。

問題1 以下の問1と問2の両方に答えなさい。

問1 ある国の経済で、国民経済計算の数値が以下のように与えられている。

- (1) 国内総生産 (GDP) の大きさを計算しなさい。
- (2) 三面等価の原則とはどのようなものか、説明しなさい。

民間最終消費支出	285
家計最終消費支出	279
政府最終消費支出	89
国内総固定資本形成	113
固定資本減耗	3
財貨・サービスの輸出	57
財貨・サービスの輸入	50
海外からの所得	13
海外に対する所得	4

問2 次の(1)(2)の設問に答えなさい。

- (1) フィリップス曲線とはどのようなものか、説明しなさい。
- (2) 現実の労働市場では、高いインフレ下でも長期的に失業が発生することがある。なぜこのような失業が解消されないのか、要因を下記の用語を用いて説明しなさい。用語には下線を引くこと。
用語：効率賃金仮説、最低賃金制度、労働組合、サーチ・モデル

問題2 以下の問1と問2の両方に答えなさい。

問1 ある財に対する需要と供給に関して、需要曲線が $D=1200-2p$ 、供給曲線が $S=4p-120$ であったとする。ただし、 D ：需要量、 S ：供給量、 p ：市場価格である。このとき、政府が財1単位の生産につき30円の補助金を生産者に支払うものとする。以下の設問に答えなさい。

- (1) 補助金支出後の均衡価格、生産者余剰、および補助金の支払総額をそれぞれ計算しなさい。
- (2) 補助金支出前と支出後の市場均衡における総余剰の変化分を計算しなさい。

問2 以下の設問に答えなさい。

- (1) セントペテルスブルクの逆説について、具体例を含めて説明しなさい。
- (2) モラルハザードについて、具体例および逆選択との特徴的な相違点を挙げて説明しなさい。